

演奏に
役立つ

One Point Lesson

田端直美 たばた・なおみ

SAXOPHONE

サクソフォーン



- ◆出身 埼玉県立伊奈学園総合高校、東京芸術大学・大学院
- ◆所属 大阪市音楽団
- ◆趣味 骨董市、古本屋めぐり
- ◆血液型 O型
- ◆星座 おうし座
- ◆読者にひとこと いつも心に音楽を!
- ◆手紙の送り先 BJ 気付
- ◆ホームページ <http://nao.misax.exblog.jp/>

豊かな表現には…ヴィブラート!

空気がひんやりして気持ちのいい季節になってきましたね! 京都の紅葉は今が見ごろ。色づいた山々を眺めながら散歩するとフーンと鼻歌が……。そんなときヴィブラートをかけてる自分を発見! そう、ヴィブラートは心の動きを表現するのに大切な手段なんですね。(*^_^*)

サクソのヴィブラートは、下あごの圧力を変えてかけます。決して難しくないので、初心者の人はもちろん、「まだ無理だわ〜」という人も気軽にかけてみてください。

さあ、さっそくチャレンジよ!

■ヴィブラートのかけ方

①まず基本の音 (なんでもいいですが、ここではソの音にしましょう) をよい響きで鳴らします。そこから下あごをゆるめて「ワ」と言うときの口で伸ばしてから元へ戻し、今度は下あごをしめて「ウ」と言うときの口で伸ばしてから、また元へ戻します(【譜例1】)。

②ゆるめるとき深い音に、しめるとき輝かしい音になっているか確認。

③慣れたら「ワウワウ」と連続してなめらかにかける(【譜例2】)。

できたかな、意外に簡単でしょ? では以下の注意点に気をつけながら、もう一回やってみましょう。

■注意点

①息圧をしっかりかけて! たとえるなら素の音が「肉」で、ヴィブラートは「調味料」なので、あくまでも素の音がしっかり鳴っているように。

②「ワ」のときに音がゆるみすぎて、基本の音程よりはずれすぎないように。

③心電図のようにガクガクかけない! 歌うように自然な波で(【図1】)。

■練習方法

1つの音で要領が分かったら、スケールを使ってすべての音でかけてみましょう! コ

ントロールしてかけられるよう、メトロノームを使いテンポに乗って練習します。

①まずはゆっくりから。♩=60で1拍につき「ワウ」を1つ入れてみる。できたら、1拍に2つ、3つ、4つと「ワウ」を増やしていく。

②今度は2拍ノンヴィブラートで素の音がしっかり鳴っているか確認してから、2拍ヴィブラートをかける(【譜例3】)。

③素の音がきちんと響いているのを確認できたら、拍頭からヴィブラートをかける。

④テンポを♩=60~92と、少しずつ上げる。

■応用編

一定のテンポでコントロールしてかかるようになったら、だんだん速くしていったり、遅くしていったりもしてみましょう。フレーズの頂点へ盛り上がっていくときはヴィブラートを増やしていくとテンションが上がりますし、フレーズをおさめるときはヴィブラートを減らしてゆくと収束感が出ます。

また響きの上めにかかる

【譜例1】

これは通常のアンブシュア

【譜例2】

【譜例3】 ♩=60~92

どんどん速い波で

【図3】

沈黙 ← 緩和 ← 安定 → 緊張 → 興奮

遅くしていく ← ふつうの速さのヴィブラート → 速くしていく

低音域 ← ヴィブラートを控えてにして落ちつかせる → 中音域 → テンションを上げて → 高音域

遅い曲 ← …… → 中くらいの速さの曲 → …… → 速い曲

ppp ← …… → 音量 mf → …… → fff

※低音域・ゆっくりな曲・小さい音量のときは、控えめなヴィブラートがぴったりくし、高音域・速い曲・大きい音量では速くしっかりとしたヴィブラートの方が映えます。

歌謡を演奏するときにはぴったりです(【図2】)。いろいろな種類のヴィブラートがかかると、曲がより色彩的になりますからぜひチャレンジしてみてください。

そうそう、ヴィブラートをかけない方がいいときもあるので、かかるようになっても年がら年中かけまくらないでね……。な〜んて言ってるタバタ、実はヴィブラートがかかるようになったらうれしくて、何にでもかけまくっていた時期がありました。これって、どんな料理にも辛いラー油をかけてるようなもの。音楽が単一になっちゃうし、聴いてる人に飽きられちゃうのでやめましょう。

■ヴィブラートの波と表情

たくさん演奏を聴けば分かると思いますが、ヴィブラートの波と表情には【図3】の関係があります。曲で実際にかけてみて、ピッタリくる波を見つけてくださいね〜。サクソはもちろん、歌や弦楽器などの演奏も参考に! イメージが大切です。

